

「挑戦する知性」プロジェクトに挑戦

NY国連本部での海外研修を含む 「総合教養演習(女性の生きる力)」

東女生、ニューヨークではばたく!

学部長 黒川 修司

創立100周年記念事業の一環として、国連研修を初めて実施致しました。OGの国連職員、事前講義を担当してくれた同僚教員、学務課、同窓会など多くの方のご協力を頂き、12コマの事前講義、24名の学生を連れて国連本部で12コマのブリーフィングを順調にこなし帰国しました。9月26日の事後講義と国連の多様なサイトの検索などを通じてのレポート提出で2単位を出します。新しい試みで、改良すべき点はあるものの、まずは満足いくスタートダッシュだったと自負しています。

国連のブリーフィングは社会経済理事会のテーマ(開発、人口と発展、女性の権利)が多かったのですが、PKO、予防外交、人道問題などもカバーされました。英語力で選抜しなかったため、ブリーフィングも英語と日本語と半々でお願いしたので、学生は内容を理解出来たと思



国連でのブリーフィングの様子©国連開発計画(UNDP)

ます。国際関係専攻以外の専攻学生が半分以上いたので、事前学習で質問項目を日本語3問、英語で3問提出させて、コメントをつけましたので、多少は心の準備もできたはず。質問もできていたので、講師からも好評でした。しかし、日本人独特の集団主義があちこちで出てきて、友達と相談しながら質問するのでは、通常場面では質問の機会など回ってきません。英語力の問題ではありません。個性を輝かせる良い機会なので、積極性を見せてほしいです。

同窓会のニューヨーク支部との懇親会も和やかに行われました。半分の同窓生は職業を持った方であったので、学生にとってもロール・モデルになったと思います。どうぞ、来年も多くの学生がこのプログラムに応募してくれるように期待しています。

(くろかわ・しゅうじ)

社会で「働く」ということ

国際社会学科国際関係専攻3年

国連研修を通して、私は「働く」姿勢を学ぶことができました。ブリーフィング(発表)中の質疑応答で特に、印象に残ったことは大きく分けて2つあります。

1つ目は、時間を守って仕事をするということです。国連には、多種多様な人々がいましたが発表の時間に遅れたり、時間ちょうどに部屋へ来たたりした人が多かったです。一方で、日本人の国連職員は、みんな発表の五分前には部屋へ到着していました。この研修を企画して下さった大崎さんが、「日本人の、クオリティの高い仕事と時間内に終わらす姿勢は評価されている」とおっしゃっていましたが、周りからの信頼を得る方法の一つとして、期限内にしっかりと仕事を終わら

せることが大事だと再認識しました。

2つ目は、国際社会を舞台に働く人々が、それぞれ自分の仕事に楽しみを見出しながら働いていることでした。講義をしてくださった山下さんが、「ニュースになっていることが自分の仕事に関わっていると、この仕事をしていて良かったと思うの。微力ながらも自分のしていることが国際社会に寄与していると感じるから」とおっしゃった際は、働く女性の強さと生き活きとした姿を垣間見ることが出来ました。寝ないで作業をすることも、というエピソードを交えながら、「辛いこともあるけど、それだけじゃないし、振り返ってみるとやっぱり楽しい」とおっしゃっていました。国連職員として働くためには、語学と実践力のある知識が必要です。職員の人たちが現在の仕事に対して誇りを持って働いているのは、学生時代に語学の習得や勉学に励まれたり、職員になった後も努力を惜みず、一つひとつの仕事に一生懸命に取り組んだ結果なのだと話を聞いて感じました。

国際社会で生き活きと活躍する人々と関わったことによって、仕事に対する姿勢を学ぶことが出来ました。今回学んだことを自分の将来に生かせるよう、今から精進していきたいと考えています。



参加者と一緒に(筆者は前から2列目、左から2番目)